









## 病害虫発生予察情報予報第 12 号（3 月の予報）

佐賀県農業技術防除センター

### I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>	3月の予想発生量 <sup>注2)</sup> (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)	
タマネギ	べと病	早生マルチ	並	 べと病（一次感染株）
		中晩生	並	
	ボトリチス葉枯症	やや少		
	白色疫病	並		
	ネギアザミウマ	並		
	<b>1. べと病</b> (1) これからが、本格的な二次伝染時期となる。本病の発生を抑えるために、「伝染源となる一次感染株の速やかな抜取り」に加え、「薬剤の予防散布」を確実に実施する。 (2) 早生では3月上旬～4月上旬、中晩生では3月下旬～4月下旬が、主要感染期である。この時期はジマンダイセン水和剤を基幹として予防散布を徹底する。散布間隔は、10日間を基本とするが、前回散布の7日後以降に曇雨天が予想される場合は、前倒しで散布を行うなど、雨前の散布を徹底する（病害虫防除のてびき参照）。			
施設果菜類	<b>1. 虫害全般（アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類）</b> 気温が高くなるに従い、施設内の害虫の増殖が盛んになるとともに、施設内への飛び込みが増加する。多発生を防ぐため、低密度時からの薬剤防除を行う。 <b>2. 病害全般（灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病）</b> こまめな換気や早朝加温によって結露を防ぐとともに、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を行う。			
イチゴ (本圃)	ハダニ類	やや多	 ハダニ類	
	うどんこ病	やや少		
	灰色かび病	やや多		
	アブラムシ類	並		
	<b>1. ハダニ類</b> 発生が平年よりやや多い。気温の上昇とともに、ハダニ類がさらに増殖しやすく防除が難しくなるため、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布するなど防除対策を徹底し、密度低下を図る。また、天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は天敵に影響のない薬剤による防除を行う。（令和3年10月29日付け病害虫対策資料第11号参照）。 <b>2. 親株の立枯性病害</b> 健全苗を育成するため、感染の無い親株（フリー苗、立枯性病害の発生が無い圃場から採苗した株等）を利用する。炭疽病については、伝染開始前の3月下旬から定期的な薬剤防除を実施するとともに、ビニルによる雨よけを行う。			

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	3月の予想発生量 <sup>注2)</sup> (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キュウリ	べと病	並	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病	並	
	褐斑病	並	
	アザミウマ類	並	
	コナジラミ類	<b>やや多</b>	
	<b>1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病</b> 媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、ウイルス病の罹病株は伝染源となるので、圃場外に持ち出し、早急に除去し処分する。		
トマト	葉かび病	やや少	 灰色かび病
	灰色かび病	やや少	
	コナジラミ類	並	
	<b>1. 葉かび病、灰色かび病</b> 発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布、適切な湿度管理を組み合わせて防除する。 <b>2. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病</b> コナジラミ類の薬剤防除を徹底する。また、ウイルス病の罹病株は伝染源となるので、圃場外に持ち出し、適切に処分する。		 黄化葉巻病
カンキツ	かいよう病	並	 ミカンハダニ
	ミカンハダニ	<b>やや多</b>	
	<b>1. ミカンハダニ</b> 多くの圃場で発生が確認されている。マシン油乳剤がまだ散布されていない場合は、発芽前までに散布する。 <b>2. かいよう病</b> 罹病葉、罹病枝は必ず除去するとともに、 <b>3月上旬までに必ず銅剤を散布する。</b> 中晩柑の園地で本病の発生を認めている。前年発生園や風当たりが強い園、罹病性品種（レモン、ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、防除対策を徹底する。 <b>3. 樹勢低下樹等への薬剤散布</b> 発芽直前は落葉を生じやすいので、次のような場合は、発芽前の銅剤、マシン油乳剤の散布を控え、生育期の薬剤散布で対応する。 前年度の結果過多樹、旱害、寒風害、低温障害などによって樹勢が低下している樹		
ナシ	<b>1. 黒星病</b> 落葉は主要な伝染源となるので、園内から除去し適切に処分するとともに、発芽直前及び発芽初期の防除を徹底する。		
キウイフルーツ	<b>1. かいよう病</b> 本病の特徴として、枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液（かいよう病菌を含む樹液）が漏出する症状がみられる（右写真参照）。これらの早期発見に努め、発見した場合は直ちに切除する。また、すべての園において、6月まで感染防止のため銅水和剤を主体とした定期的な薬剤防除を徹底する。		 かいよう病菌を含んだ樹液の漏出

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	3月の予想発生量 <sup>注2)</sup> (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
茶	カンザワハダニ	やや多	 カンザワハダニ
	<p><b>1. カンザワハダニ</b> 一部の圃場で発生が多い。多発後の薬剤散布では、防除効果が不十分となるため、萌芽前までの防除を徹底する。</p> <p><b>2. 赤焼病</b> 一部の圃場で発生が多い。被害拡大防止のため、発生を認めた場合は直ちに銅剤の散布を行う。なお、ダニの防除等でマシン油を散布する場合は本病を助長させるため、マシン油乳剤散布の3～7日前に銅剤の散布を行う。</p> <p><b>3. チャトゲコナジラミ</b> 生育ステージが揃う越冬世代（幼虫）に対する防除効果が高いため、冬期のマシン油散布による防除を徹底する。</p>		
キク	白さび病	やや少	 クロゲハナアザミウマ
	アザミウマ類	並	
	アブラムシ類	並	
	ハダニ類	やや少	
	ハモグリバエ類	並	
	<p><b>1. アザミウマ類</b> 一部圃場で発生を確認している。今後、気温が高くなるに従い、本虫の増殖が盛んになる。また、多発生となると防除が困難であるため、低密度時からの防除を実施する。薬剤は、本虫が多く寄生する葉裏等に十分かかるように散布する。</p>		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

[https://www.pref.saga.lg.jp/ki\\_ji00321928/index.html](https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html)

QRコード→



## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。  
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。  
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（3ページの注釈にリンクが有ります）。

### 写真

- 1～3ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
5ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 3月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する3月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和4年2月17日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における3月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	40 (10.4℃)	30	並
降水量	30	40 (120.6 mm)	30	並

### Ⅲ. 3月の予報

## タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 20 圃場、防除員 4 圃場  
調査日：2月14～20日



定期調査圃場の様子

## 1. ベと病（早生マルチ）

### 1) 予報の内容

発生量：平年並

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

①定期調査（一次感染株の発生推移を図1に、二次感染株の発生推移を図2に示す）

発生株率：0.08%（平年0.13%、前年0.16%）、平年比：並（±）

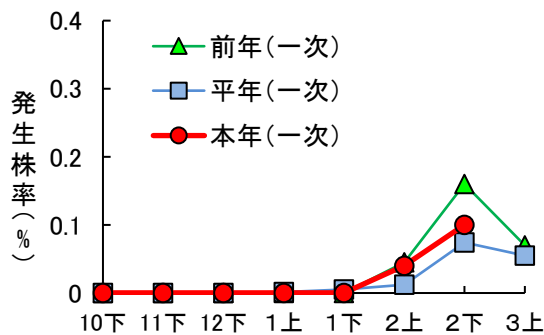


図1 早生タマネギでのべと病（一次感染株）の発生推移

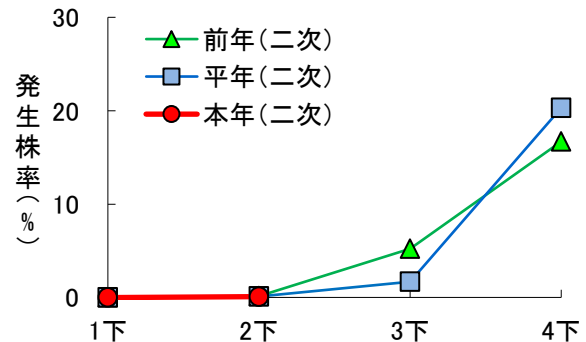


図2 早生タマネギでのべと病（二次感染株）の発生推移

注) 図1の平年値は、2017～2021年の5年間平均。

### (2) 3月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

## 2. ベと病（中晩生）

### 1) 予報の内容

発生量：平年並

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

①定期調査（一次感染株の発生推移を図1に、二次感染株の発生推移を図2に示す）

発生株率：0%（平年0.05%、前年0.04%）、平年比：やや少（-～±）



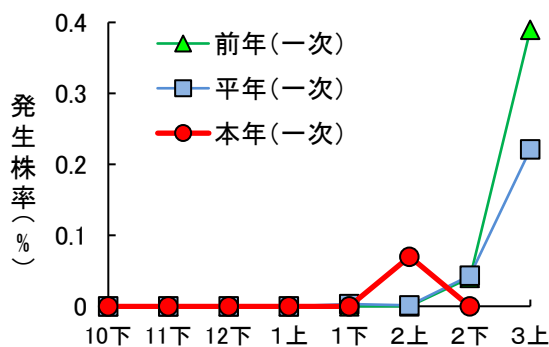


図1 中晩生タマネギでのべと病(一次感染株)の発生推移

注) 図1の平年値は、2017～2021年の5年間平均。

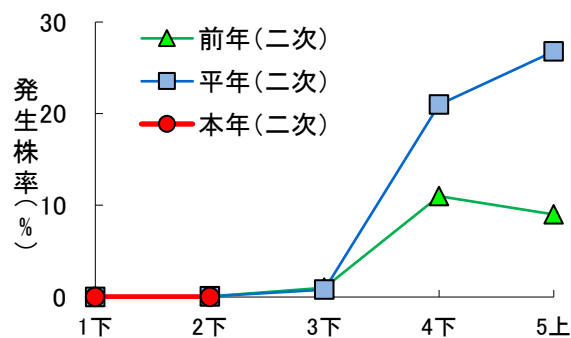


図2 中晩生タマネギでのべと病(二次感染株)の発生推移

- (2) 3月の気象予報  
降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項参照。

### 3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年2.6%、前年1.3%)

平年比：やや少 (一～±)

(2) 3月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めた場合には、速やかに薬剤防除を実施する。

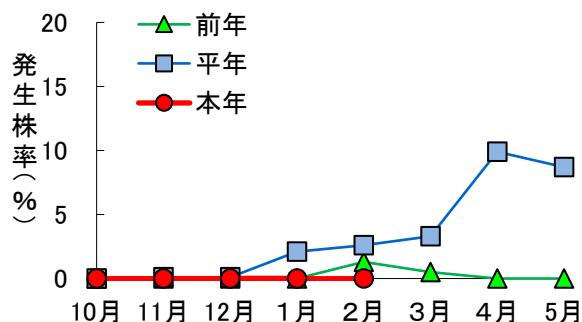


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

### 4. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：2.8% (平年2.7%、前年7.3%)

平年比：並 (±)

(2) 3月の気象予報

気温は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めた圃場では、低密度時から薬剤防除を行う。本虫は薬液のかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤はそれらの部位にもかかるよう、生育に応じた十分量を丁寧に散布する。

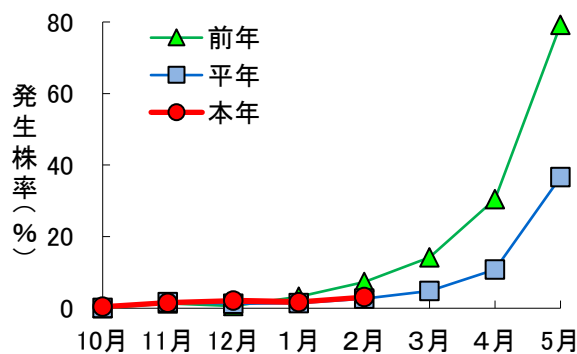


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

# イチゴ（本圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 4 圃場  
調査日：2 月 14～16 日



定期調査圃場の様子

## 1. ハダニ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①定期調査（図1参照）

発生株率：27.1%（平年 19.8%、前年 37.3%）

平年比：やや多（±～+）

#### (2) 防除上注意すべき事項

(1) 発生圃場では、5～7 日間隔で薬剤散布を実施し、密度低下を図る。

(2) その他については、特記事項を参照する。

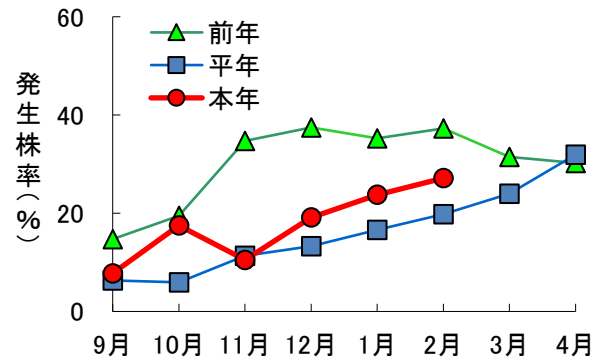


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

## 2. うどんこ病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①定期調査（図1参照）

発生株率：0.6%（平年 2.4%、前年 0%）

平年比：やや少（-～±）

#### (2) 3月の気象予報

降水量が並で、並発生の条件（±）

#### (3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（施設果菜類の項）を参照。

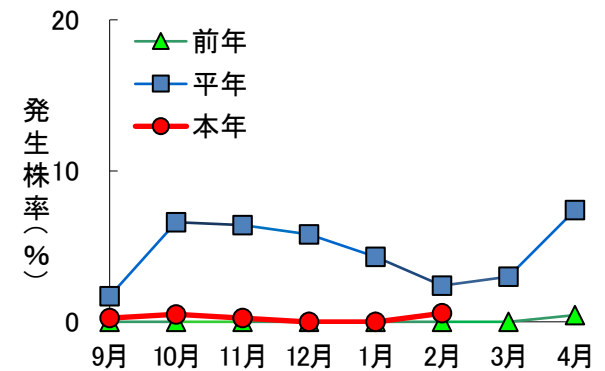


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

## 3. 灰色かび病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①定期調査（図1参照）

発生株率：0.7%（平年 0.3%、前年 1.1%）

平年比：やや多（±～+）

#### (2) 3月の気象予報

降水量が並で、並発生の条件（±）

#### (3) 防除上注意すべき事項

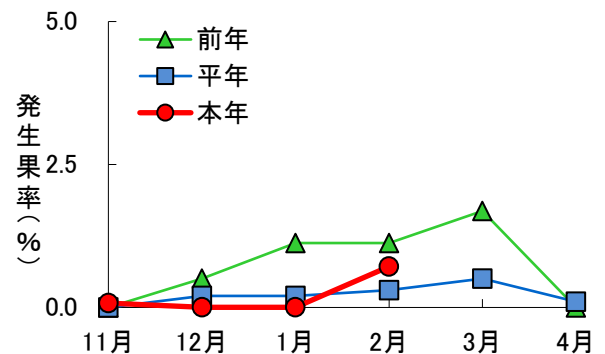


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

- (1) 「いちごさん」では受粉後の花卉が外れにくいので、果実での被害が発生しやすい。ブローチ等を用い定期的に花卉を除去する。
- (2) その他については、特記事項（施設果菜類の項）を参照する。

## キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 3 圃場、防除員 4 圃場  
調査日：2月14～18日



定期調査圃場の様子

### 1. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

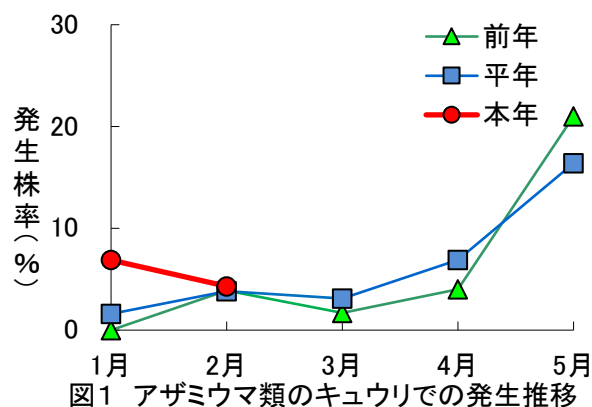
(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生株率：4.3%（平年3.8%、前年3.9%）  
平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



### 2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

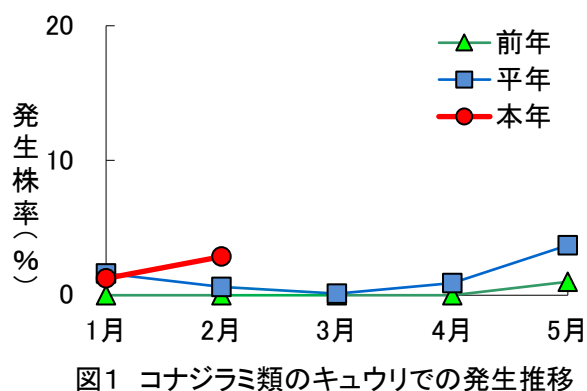
(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生株率：2.9%（平年0.6%、前年0%）  
平年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



## トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6 圃場、防除員 4 圃場  
調査日：2月9～15日



定期調査圃場の様子



# 1. 灰色かび病

## 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：2.0% (平年 7.2%、前年 11.0%)

平年比：やや少 (一～±)

### (2) 2月の気象予報

気温は並、降水量は並で、並発生の条件 (±)

## 3) 防除上注意すべき事項

### (1) 特記事項を参照。

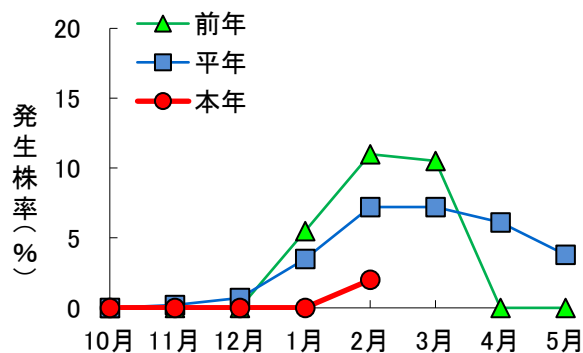


図1 トマト灰色かび病の発生推移

# 2. コナジラミ類

## 1) 予報の内容

発生量：平年並

## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：2.0% (平年 1.9%、前年 1.5%)

平年比：並 (±)

## 3) 防除上注意すべき事項

### (1) 特記事項を参照。

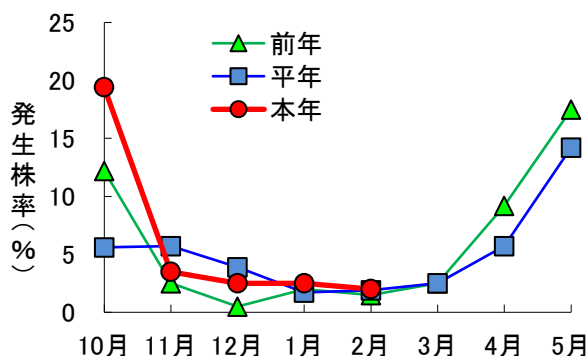


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

# カンキツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場

調査日：2月9～10日



定期調査圃場の様子

# 1. かいよう病

## 1) 予報の内容

発生量：平年並

## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ① 定期調査 (図1 参照)

発生葉率：0% (平年 0%、前年 0%)

平年比：並 (±)

### (2) 昨年10月の調査において発生を確認していない。(±)

### (3) 3月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

## 3) 防除上注意すべき事項

### (1) 特記事項を参照。

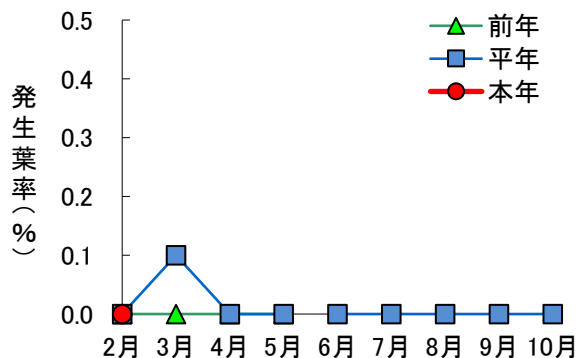


図1 カンキツでのかいよう病の発生推移

(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

## 2. ミカンハダニ

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査 (図1 参照)

発生葉率：8.5% (平年 3.5%、前年 13.3%)

平年比：多<+>

#### (2) 3月の気象予報

気温は並、降水量は並で、並発生の条件<±>

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) その他については、特記事項参照。

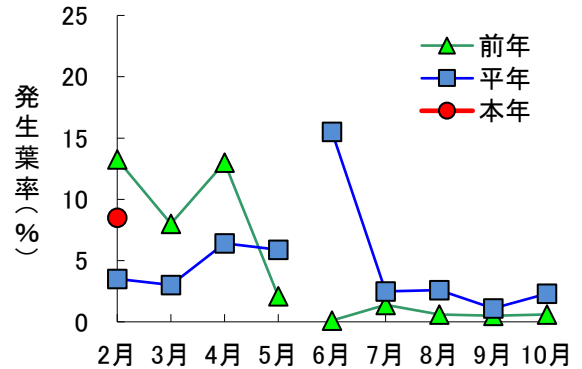


図1 カンキツでのミカンハダニの発生推移  
(注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査)

## 茶

[【概要に戻る】](#)

定期調査：7圃場

調査日：2月9～10日



定期調査圃場の様子

## 1. カンザワハダニ

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査 (図1 参照)

発生葉率：3.1% (平年 1.5%、前年 1.4%)

平年比：やや多<±~+>

#### (2) 3月の気象予報

気温は並、降水量は並で、並発生の条件<±>

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) その他については、特記事項参照。

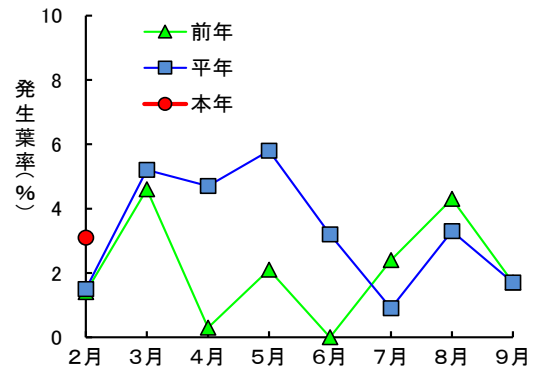


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

## キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8圃場

調査日：2月9～16日



定期調査圃場の様子

# 1. 白さび病

## 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ①定期調査（図1参照）

発生株率0%（平年2.9%、前年0%）

平年比：やや少（-～±）

### (2) 3月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 換気を行うなど施設内の適切な湿度管理に努めるとともに、発病前からの定期的な薬剤散布を実施する。
- (2) 発病を認めたら、罹病葉を除去し、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

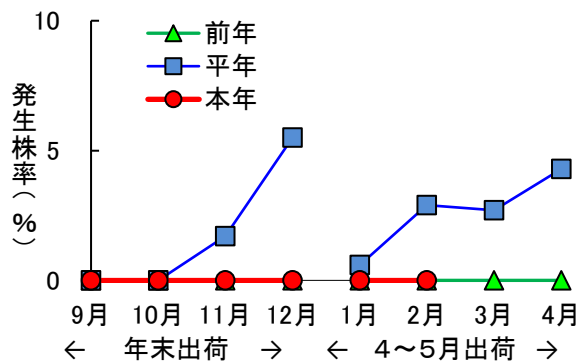


図1 キク白さび病の発生推移

# 2. アザミウマ類（クダヒアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

## 1) 予報の内容

発生量：平年並

## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ①定期調査（図1参照）

発生株率2.3%（平年2.1%、前年4.5%）

平年比：並（±）

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病（TSW）・茎えそ病（CSNV）の発病株は早急に抜き取り、圃場外へ持ち出し適切に処分する。
- (2) その他については特記事項を参照する。

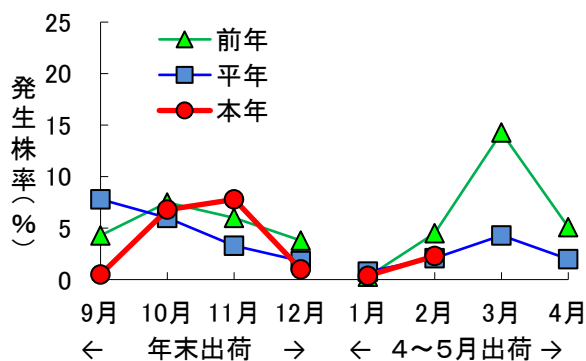


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

# 3. ハダニ類

## 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ①定期調査

発生株率0%（平年0.2%、前年0%）

平年比：やや少（-～±）

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

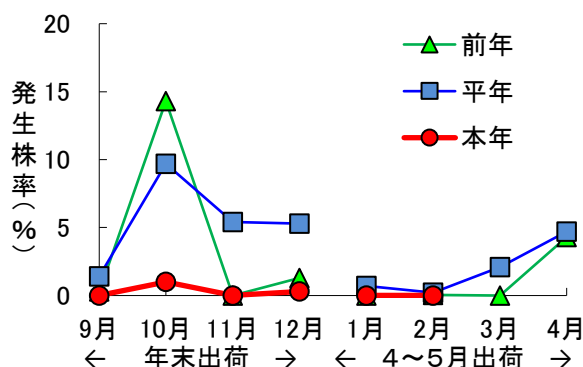


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail [nougyougi\\_jutsu@pref.saga.lg.jp](mailto:nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp)

ホームページアドレス [https://www.pref.saga.lg.jp/ki\\_ji00321899/index.html](https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html)

